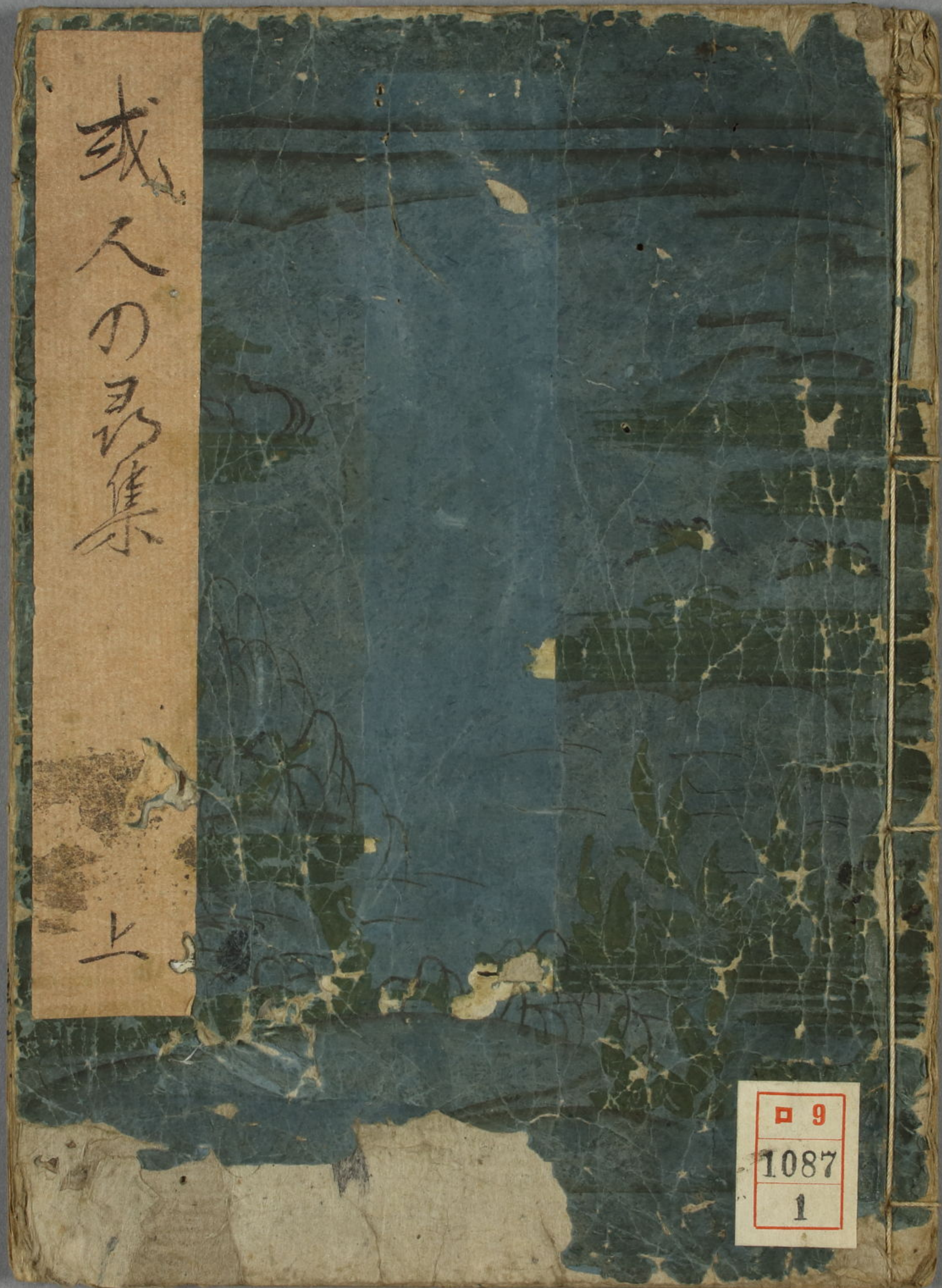




或人の為と目錄

- 一 碑のかげのふらん同書の手
- 一 未摘花貞女なるかゝる為れり
- 一 女子もびりんすべしとの事 付り女の文字をてい無き
- 一 源氏物語の系と云々
- 一 男子のまゝなりけり まゝなりけりといふ
- 一 幼女といふは いふは ずいふ いふは 義なり
- 一 今や小童の手
- 一 夢のわりと男に いふは 夢と云ふは
- 一 夢のわりと男に いふは 夢と云ふは
- 一 貞女の厄 いふは 厄といふは
- 一 夢のわりと男に いふは 夢と云ふは



- 一 小町の人の女子は男子に事なせどもふけず
- 一 婦人の国屋に日夜終るゝと云ふ言事おろく死なせ
しゝの事なす
- 一 あり母女子のふれとさづわす
- 一 富貴なりありいふとくてもふたといふ事

あつひのきづひよ

或同を女子の教戒と云に君子の文をとりしひず
ぬるれあそひに何佛のやと源氏物語の云ふは
え思退て棄するに源氏物語と云ふ人おほはれは其
ありろとさづわすをぬれぬ双剣の款と云ふ事お
り後と云ふ人もと云ふありぬと云ふと云ふ
知くはむつゝと云ふやあま十人九人の事なり
書にむらてもひとくは高目の目にむらと云ふ
は口本の風儀と云ふや伊勢物語源氏物語の云ふ
あまむこれと云ふ女子の事と云ふといふ事
ねと云ふと云ふは今新通と云ふといふ事
そと云ふ事に入りの事又云ふやうたおろしと云ふ

あゝと唐國よりハ素葉短衣の朝弄やまゝのほろ文
 子よりものゝとく詠文育になりそんぞらん
 識といまゝくもん法といふハ詩賦待文の
 居くん法ハ學術にけず志心はじうず強固より
 て現たがざれども皆理學になづもく學と心と別く
 かり只學といへば舌のさみとやりて心身ハ
 ぐろろくとけんがめよりそゝわ若く二十人三
 十人精識と戒てん法にうまうも天下ハ精識何ぞたへや
 又心法學術よに入て好人君子とありくろくにハ若那
 うろくハ精識にほろも子孫のたゞけ心友の益は世の
 なるより又そめは速なく文若く思考より倅位にあり
 じうく食せんよりハ精識又學とて人の益とや若ん

のがとまぬもんなり將儀と云く奉業^{ほうごう}所^{ところ}也^{なり}
 するとも何ぞ心法^{しんぽう}と學^{まな}んで身^みれ並とせむんや只^{ただ}將儀
 を云く素^{もと}當^{あた}の責^せ己^{おのれ}が將儀よはるれあやまりより
 當^{あた}世^よは法と擧^あげ記^き誦^じ詞^し誦^じの字とてす故^{ゆゑ}は心法
 と專^{せん}としてつめをいふ一^{ひと}ひ將儀とあはれとあるに
 何^{なん}ず況^{いは}や祿^{りく}あるも職^{しやく}ある人^{ひと}は當^{あた}に云^いふ云^いふ奉業と
 せいとせど何の^{なんの}も將儀はあつらんや祿^{りく}は國^{くに}郡^{ぐん}と
 保^{たも}人^{ひと}はづう^う將儀と申^{まを}とせずとも^{とも}意^い利^りに^に對^{たい}
 して^{して}保^{たも}人^{ひと}と云^いふは^はいともく^{ともく}支^し給^くらんはふ
 是^{こゝ}あつて何^{なん}乃^の並^{なり}ありて^て古^{ふる}の^のま^まと^とよろとび給^くは
 び^せ別^{べつ}の^の武^ぶ士^し農^{のう}工^{こう}高^{たか}といふとも祿^{りく}あり^{あり}職^{しやく}あり^{あり}奉^{ほう}業^{ごう}あり^{あり}も
 の^{もの}何^{なん}の^の並^{なり}ありとてづから將儀と好^{この}ま^まん心法と好^{この}ま^ま

卷之四

玄原氏ハナノ上ノ下

玄妙ノバ

玄中和しやうわだよハ志しとのづく詩賦しふと一いっ擧きやう

五



之是日奉の

32
 32

げろろ

同其幼女と弟ぶ一いおものゝまふはぢぢや

きつろきいもうめずともいふとバブル
雅楽と

貝合のきぐひ何ぞく——んん——るれ振ひとな
 きんいははるるるる又は女はうきうきとわかれぬるるるる
 常にきくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく
 ちせずいつとむの女らうきうき——んん——るれ振ひとな
 ひとくきくきくきくきくきくきくきくきくきくきく
 きり 同予いすきききききききききききききききき
 えききききききききききききききききききききき
 けんきききききききききききききききききききき



同あしふた人の信濃のふれと今されわしは事成さ
びあもくつる 云其かとあづげは八分信より
なむ一様世の今やと一いつあきく
時死ゆくあさゆくつれとひ物とふれむ
てつとふ時あさくともあはさふひ又ふれ家
の凡と野あさくともあさ其ふい一にをさる
事成かく只當世の多づりになりてあさよとれ
とふなり一いつあきくつる

従子同もあきとくつるあさいつれ男にふれ
ふされとくつるあきとくつるあさいつれ男にふれ
人あき人のあさもくつるあきとくつるあさいつれ男にふれ
一人二人つるあきとくつるあさいつれ男にふれ

どもあきれりのふれと今されわしは事成さ
云其かとあづげは八分信より
なむ一様世の今やと一いつあきく
時死ゆくあさゆくつれとひ物とふれむ
てつとふ時あさくともあはさふひ又ふれ家
の凡と野あさくともあさ其ふい一にをさる
事成かく只當世の多づりになりてあさよとれ
とふなり一いつあきくつる

男おとこ女をんなが一つのおとこをあつてむくして花はなのどくろにてめく
 さいさうひにけくしひなでする女子に一人
 もふにさう上うへ膳だんはしるどとも声こゑにうさずるな
 といふともちうひといふのうてなは那なが
 さす紙かみいさず静しずかなるものあり男子といふも口くちず
 りのへえぐろしうて女子とや奴僕ぬが一人とどに一つあ
 かめはどの女子よりとももて人わりてとふ事な
 らむ用もちすまばいづー用もちなれは男子もきんきんし
 てことばけりのより安やすきをさふぬるぐにせば抱かかいと
 てもあまうしぬるさういひうめりぐとて人入てりあ
 ともぬいさうかむりくわぬる女子ハ一婦人ハ
 二変ふたへんといはるものもは辨わ舌ぜつく抱かかひく何の

目をむく——はれも待ともくづして出——を
とびくられは押さりのりまづかにうづ
やなまどとむいつと多くそわりるも上落は我
いはいもそわねどは女よそへうはもあさるも
て我あそびとすあふぐら務めになほすお国あ
あやせにうづるぶさのめきむひも我いあめも
くう——は女よそへおちくうもく——これと
く——すいしるたうめれうもとならる
げもむむくう堀——く旧保のあわうくまの家
上落——くれば其兄親の女にまどく——
あめく交りあはれりのりく——く——め
に神もはれすをれく人もねく——く人

ろあめく——喜ほりねよ紙これとあめ 同く
お子堀り食い——く 云い道だく——く
そそにおめく——くおの婦人さくをばくわ——
同は女に食はあてて樂く——く何や 云は女は
きくめもや——くもく——く 個食さる婦人け
あ——のうぐく——くもく——く 味と食さるめ
——くはれはな——くおじまり
或同再婚のめく——の命とすれく——く
ほく——く貞をたむく——く 欲さる婦人尼なる事を
ゆく——く何や 云い——く 衣はさるめ
おとびもく——く尼といくもさびあま——く
おとびす——くく——く 中人く——くの人



一五年も後子とてよく再嫁とて又同人の婦人はい
まゝつゝ母とて其の男子もその再嫁せしを可
再せしといふも不問にすゝむ其意にまづあはれ
とて率おに尼とてゑなすす又年々十年もそ
多とて見とてけのち尼とてむを時々のに
又婦人愛するなりとも久しとてに時々のに
或は兄弟又ハ夫乃を親の富貴なりとてよりとて
ありあはれなりとてにハあはれなりとて兄弟
もも幸く仕宿りくとて外は女抱おほくをとな
いふれつあはれなりとて農工商なりとて多しとて
さへさへさへなりとてさへさへさへ再嫁なりとて
なりハ後なり又さへ尼乃親類なりとてさへさへ

哭^なでも老^お女^めとつりありつり婦人^{ふじん}ハコトありあ
 ぬ^いり粧^{まは}ハ婦人^{ふじん}ハ礼^{れい}義^ぎなり礼^{れい}儀^ぎなりと云^いふま
 をけず男^{おとこ}乃^{すなは}ちやふもあつてばつやれしむあそり
 髪^{かみ}とりあがれと云^いふぬと云^いふこれと云^いふ婦人^{ふじん}
 け心^{こころ}むりとも云^いふにおわく礼^{れい}義^ぎなりなり
 と云^いふ一^{ひと}く女^めと云^いふ世^よにありのやめと云^いふ
 何^{なに}と云^いふ目にきく礼^{れい}儀^ぎと云^いふつりつり
 云^いふ一^{ひと}く女^めの清^{きよ}浄^{じやう}なりと云^いふ云^いふ
 と云^いふあがら粧^{まは}と云^いふと云^いふ云^いふ
 向^{むか}三^{さん}嫁^{よめ}いふ云^いふ云^いふ嫁^{よめ}に云^いふ云^いふ云^いふ
 人情^{にんじやう}の好^{この}むと云^いふ云^いふ云^いふ云^いふ云^いふ云^いふ
 かり兄弟^{けいだい}を親^{おや}貧^{ひん}乏^ふなりと云^いふ云^いふ云^いふ云^いふ云^いふ

婦人ついにさぞかたみちるべし

或女同く盛の事と仰れども皆女の乳をいふ

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

あつた女性うられみづからさういふとせんとす

一とみづからさういふとせんとす

あつた女性うられみづからさういふとせんとす

一とみづからさういふとせんとす

あつた女性うられみづからさういふとせんとす

一とみづからさういふとせんとす

婦人同く盛の事と仰れども皆女の乳をいふ

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

まじりていふもさういふもさういふも

ゆうとばいといふてんべん
 ぶねもさういふてんべん
 けうぬすにはききもつた男よし人なりよハ先は
 おいよめ親としてもわつと女の余計な事あるまい
 さういふん男女六十にさざれば人見づるにせさ
 とさういふてんべん
 けうぬすにはききもつた男よし人なりよハ先は
 おいよめ親としてもわつと女の余計な事あるまい
 さういふん男女六十にさざれば人見づるにせさ
 とさういふてんべん

けりてくくろんたれをばきくまふどに
 けり人の物見わくく田舎人ののろくとそれ
 さぬもろくゆとやゆりゆうくもひり桑
 揺女に鑑同うりくと文王の右妃太姫の聖門に
 秘せー事詩経召南ハハくけりけきどもひり
 ハ武王の農兵なりーくやー凡も庶く妻表
 の垣まどに紫れきくひとくてあきとけく
 たろーか子もふばくーけり園門よ日をけり
 事ハいーの婦人情あつくとけハけり



ほせとて女列女上臈へさもゆり又わうへかよ
いづとも常い興うて居ておきていじさといでぬは
国門よりと流れてもくもくはくはくはくはくはく
んやしもとらよやまのいりなり今いさう
多とりらう婦人かよハ初めより素つくること
しはやくせぬゆりなりとらうて居る浦
おとせむけとばかりハ野山いでも背胸とて
らさくハ病ぬきとていふ方ればぬきよりて後令
うぐーハ田舎へさうの事もやとくゆりたぬ
糸に戸もくも同帳目人ごみとてわいぬきの糸
うぐれ半にゆり常流なることハ一年に二こなバ
るといふ——ぬきにゆり又化あり糸に戸き

くハ田舎へさうの事もやとくゆりたぬ婦人ハ糸
田舎へさうの事もやとくゆりたぬ婦人ハ糸
人ハ田舎へさうの事もやとくゆりたぬ婦人ハ糸
ぬきにゆり又化あり糸に戸き

或慈母同女か子わういふとてはくはくはくはくはく
とばさういふとてはくはくはくはくはくはくはく
ふにゆりまう今いさうのうんあぶいふとてはく
まもいさういふとてはくはくはくはくはくはく
うぐれ女子わういふとてはくはくはくはくはく
おとらうとて女列女上臈へさもゆり又わうへかよ
うぐれハ端ぐいさういふとてはくはくはくはく
一人二人ハわういさういふとてはくはくはくはく



昨日とわつと更紗いいでまた何とひくろ子孫にたて
のこさんや

女藤岡玄富より人どぐうとてもろく一町よりれん
いろろゆめはゆらん 玄一門の中にまぐろ人ど
一れ人あきどろろめは門のちろく人どろろめ
のちどろかひひ又富より一段わきとて横の歯と
やに安否とていつつろくおろくど男女とてにん人
の通情より富より美城の命とておろく一町より
美城よりめとてどろりてんづひちぢい大がり
とておろく一町より世とつろく富より人どろろの
ろろとて我よりいふにひんせんあんなもろれど
くどさやろく人どろろくどいふ事におろ

あーいおれとてどろく美城なる人どろろく
を我よりわんとて一町ろくどろろく美城
ゆ人ハつろくどろろにおろく一町ろく美城
ゆろとてゆめとて世とつろく美城ゆりて我より三
代吾とてはじとて人どろろとて一町ろく又
人のさあにはろくれどかろろくどろろく
とて世とつろく一町の美城とて一町ろりて
我世におろろく一町ろく二代のろろろひ二代
もろく其家よりろろく一町ろく人どろろく
ろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
もろろ人ハ事とてろろろろろろろろろろろ
美なるゆめとてろろろろろろろろろろろ

ありあけのやうにそれより人よほころとれへに
 されふにやがりて人をちよどわたりあつたに
 けしうみふれよぬさひおほーい切よおとづるを
 まよふゆふりの十人が中にさうく一人二人と
 さんでんちれどもあつたたり人よとをまよ
 とれづりてうみあつたわづーあまなる人より
 にあつてゑさすはれどさうくもわくハれ
 のつげのそとあつたわづーそれより女は
 皆むがりともぬがいひーうーくあつた
 おにまの女におほあつたはーみあつた
 になむ

